



TVを見ていると、交通事故とともに火事のニュースが多い。お年寄りがそれでよく亡くなる。例えばコンロの火が袖に移り、消そうと思っても、思うように身体が動かず消せない。あるいは、袖に火が点いてもその状況がのみこめなかったりパニックになったりして、火事場の馬鹿力も出せず、燃え広がって。既にしてお年寄りの一人である小生は、わが身もいずれ……等とぼんやり考えていたところに、降って湧いた田児、桃田らの違法カジノ・バカラ賭博騒動。バカなことをっ!と腹が立つより力が抜けた。中に顔見知りの者も居るだけに、がっかりである。これまでも何回か大会プログラムで、世の中の籠が緩み善悪の境がぼんやりとして来た云々と申し上げてきたが、ついにここまで来てしまった。

折角日本のバドミントン界も上昇気流に乗り、マスコミ等への露出が格段に増えリオへの期待も増していたのに。この3月下旬、NHKBSでM. シデクの東京・日黒の中学生への指導振りが放映され、物語は出来ていたものの気持ちよく構成されていて、ああ、やっぱ、バドミントンっていいなあと幸せな気持ちになっていたのに。桃田君：バドマガの表紙を飾り、インタビュー記事が載り、TVであの素晴らしいヘアピンが幾度と無く放映され得意然としていたのに。そして田児君：TVで奈良岡功大君を真剣に指導していた君は何だったのか?怒りと言うよりすごくもやもやが残った。全日本総合の時、観客席を無邪気に走り回っていた幼少の頃の君が懐かしい。

それぞれがそれぞれの生き方をしても、結果に責任を持つというのなら仕方ないが、これは絶対にイケナイ。ちくったのは誰だ等と言ってる場合ではない。見て見ぬふりをせず、悪いことは悪いと指導者たちはハッキリと言わなければいけない。外国では許されているといっても、ここは日本である。電車内のアナウンスで、「降り口(最近では出口と言っていることが多い)は右側です」とあったら、それは進行方向に向かってということである。「時計回り」と言ったら、普通は右回りのことである。逐一説明がなくても、約束事は沢山ある。

昨年の奈良大会での研修で、日バ専務理事の銭谷欽治氏も言っておられたが、パーソナル、人格形成のための教育は大事である。強ければいいというわけではない。バドミントン競技はルールに則って行われるが、コート内だけではなく、学生生活・社会生活にもルールがあるのだということを、青少年たちの心に沁みこませていただきたい。そのためには我々も自身を律しなくてはいけないが、何も石部金吉になる必要は無い。ゆとりを持って、注意深く接して行って頂きたい。何?関場の馬鹿力?いや、それはもう残って無い。たぶん。

(鬱々として先日、都内の某スポーツセンターを覗いたら、老若男女・国籍を問わず、多くのひと達が順番待ちをし、嬉々としてプレーをしていた。また、シニアの予選や大学のリーグ戦では、熱戦がくり広げられていた。バドミントン離れは無いようでちょっぴり安堵した)。

目 次

巻頭言

第 54 回全日本教職員バドミントン選手権大会 研修会報告

平成 27 年度全日本総合選手権大会レポート

特別企画 第 7 回世界シニア大会に参加して

第 5 回全日本教育系学生選手権大会

表紙の人